

# 付け加えることができる価値は何か？

～82000 キロ離れてみた経験から～

3

千葉 晃央

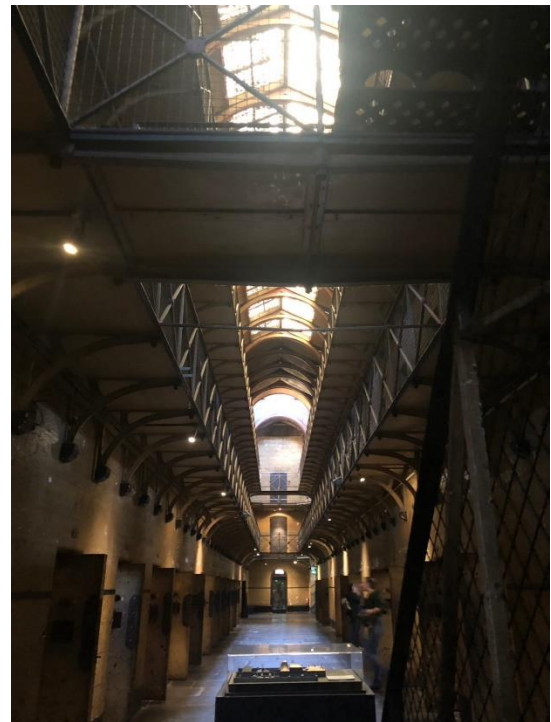
## 捕虜体験に近い経験



旧メルボルン監獄へいく。1850年代から1923年まで使用されていた監獄。130以上の拷問器具、死刑囚のデスマスクもその罪状も解説付きで展示されていた。絞首の様子、女性の不貞に対する処罰なども展示紹

介。薄暗く、独房も狭く、入るとひんやりして、ゾッとする雰囲気あり。

独房が連なる棟や監獄の門などが残されていた。入り口で、囚人体験ツアーをしませんかと誘われる。チャレンジしてみた。



同行した日本人2人と合わせて男性3人で参加。旧監獄前に20人程度が開始を歩道

で待つ。監獄の建物の物々しさと裏腹に参加者の様子は観光客。半ズボンに、ガイドブックと緩やか。その対比を見ているうちに、看守が出てきた。ツアーの開始が告げられる。すでに、ここからスタート。大声で威圧的に、怒鳴られて入れられるのである。



「はやくはいれ、何をダラダラぼーっとしているんだ」というような内容かと思われる。私たちは独房が並ぶ廊下に連れられて行く。そして、壁に背を向けて、きちんと立つことを強られる。まさしく「看守」。一切笑顔はない。列の先頭から最後まで何度も行き来をしながら、一人一人を上から下までなめまわすように見る。姿勢が乱れていると正される。参加者もはじめは笑いが出ていたが、しばらくするとそれもなし。真剣に伝えようとしている雰囲気呑まれる。

英語がわからない。早口で余計にわからない。「戦争で捕虜になるというのはこういう体験か」と思う。いくら体験ツアーであっ

ても不安になった。看守の説明の最後に「少し自由にみていい」という言葉を言っているようで、その時には参加者は柔らかい表情を取り戻し、各所をまわる。勇気を出して看守と写真を撮ってもらう猛者もいて、威厳も持ちながら笑みもなく看守は撮られていた。また次の場所へ移動させられて座って話を聞いていくこと数回。独房以外の監獄は男女で分けられて、シャワーブース1つとトイレが1つ程度の設備でウン十人が入れられていた。投げられないように机も椅子も固定化されている様子もあった。実際に第二次世界大戦時には、臨時的に再度使われたこともあったそうである。拘束され、怒鳴られ、異国で言語が不明という環境がいかに過酷であるかを身を持って体験した。この観光ツアーでさえ、いつ終わるのか?とも感じた。わからなかいことが不安



を増長していた。戦時下における捕虜の立場の一端を経験することができた。





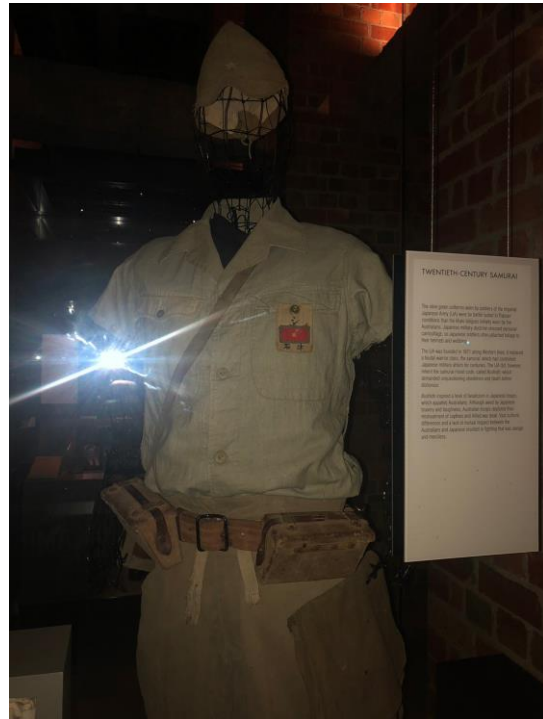
ジブリの映画『魔女の宅急便』に登場する建物のモデルといわれるフィンダーストリート駅をとおって徒歩で南下。エドワード7世の大きな像があった。彼は日英同盟などを締結し、日本・フランス・ロシアとの関係が強化された時期に在位し「ピースメーカー」と呼ばれているそうである。戦没慰霊館に入ると入り口ではたくさんのメダル？勲章？の展示があった。

## 日本によるオーストラリア攻撃





日本軍はオーストラリアを空襲している。代表的なものは「ダーウィン空襲」と呼ばれ、1942年2月日本海軍が行った。計242機の日本軍機が2回、ダーウィン湾の市街地、艦船そして2つの飛行場を攻撃している。オーストラリア史上で最大規模の他国による攻撃となっている。そして継続的に1942年から43年にかけて100回以上日本軍がオーストラリアに対して空襲を行っている。また、潜水艦によっても攻撃が行われた。近年になってオーストラリア軍が潜水艦の購入を考えた時に候補として日本製もあったが、こうした経過もあって今だに国内から抵抗があったという話も聞く。



加害者の国の人として戦没慰霊館を訪れることには勇気が必要ではあった。日本か



ら受けた攻撃の記録、捕虜の記録も展示されていた。オーストラリアがイギリスの植

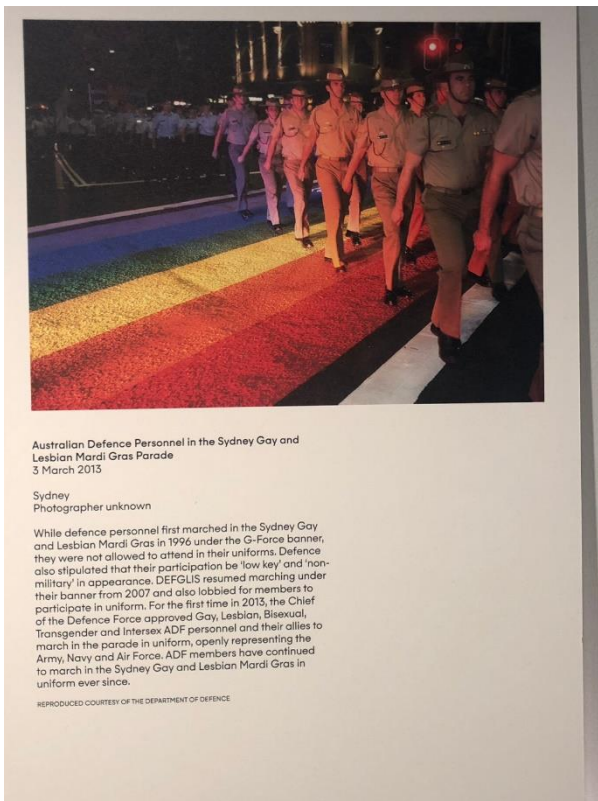




民地時代から独立しての建国以後にいかにも国際紛争への協力を行い、国際的立場の使命を担ってきたかを中心に伝えていた。また、軍隊というマッシュヨな価値だけでなく、LGBTQ の運動も積極的に行っている姿も印象深い。命をかけてきた歴史の側面を見せていた。



その帰り道、オーストラリア軍の兵舎前を歩く。入り口前には大砲と記念碑があった。メルボルンを歩いていると開放的だと感じてきたが、アートに関する大学の前を通ると、さらに自由でのびのびと、豊かな自己表現をしている姿も見られた。



Australian Defence Personnel in the Sydney Gay and Lesbian Mardi Gras Parade  
3 March 2013

Sydney  
Photographer unknown

While defence personnel first marched in the Sydney Gay and Lesbian Mardi Gras in 1996 under the G-Force banner, they were not allowed to attend in their uniforms. Defence also stipulated that their participation be 'low key' and 'non-military' in appearance. DEFGLIS resumed marching under their banner from 2007 and also lobbied for members to participate in uniform. For the first time in 2013, the Chief of the Defence Force approved Gay, Lesbian, Bisexual, Transgender and Intersex ADF personnel and their allies to march in the parade in uniform, openly representing the Army, Navy and Air Force. ADF members have continued to march in the Sydney Gay and Lesbian Mardi Gras in uniform ever since.

REPRODUCED COURTESY OF THE DEPARTMENT OF DEFENCE

## 移民資料館へ



新しい国をつくと建国し、その新しいオーストラリアをつくる上で、住民が間違いなく必要だった。そのため、様々な機会移民を受け入れてきたことが移民資料館では展示されていた。メルボルンを歩いていると世界全ての人種の人がいるのではないかと感じた。人種のるつぼといわれるニューヨークよりも感じたし、人種によって仕事の偏向も少ない印象を持った。

移民のきっかけはこれまで歴史でならってきた、そしてニュースで見てきたあらゆる災害である。そして先にいた親族を頼ってくるという流れもある。災害は自然災害はもちろん戦禍という災害もあるし、政変の場合もある。日本軍が第二次世界大戦で中国を攻撃し、その被害で中国からオーストラリアに移民した様子も展示されていた。日本人もオーストラリアに移民としてもち



ろん来ていてその家族の詳細も展示されていた。テラーをしていた家族の姿もあった。

また、移民の方々の一部は国を追われている。戻れないのである。今いるところを豊かにするしかない。その共通するエネルギー







一も感じられた。来館者は小学生が多い。学校行事で来ている様子である。入館時にはどの国から来たか？と問われた。入館者のルーツも集計していた。移民には差別もついてくる。さらに広義に捉え、LGBTQ へ

の差別、性教育、子どもの成長もテーマに啓発を行っていた。

監獄、戦争慰霊館、移民資料館をめぐり、開発し、創造するエネルギーを強く感じた。日本ではなかなか感じ得ない体験となった。